

当該事業区間以外での工事の取組み状況

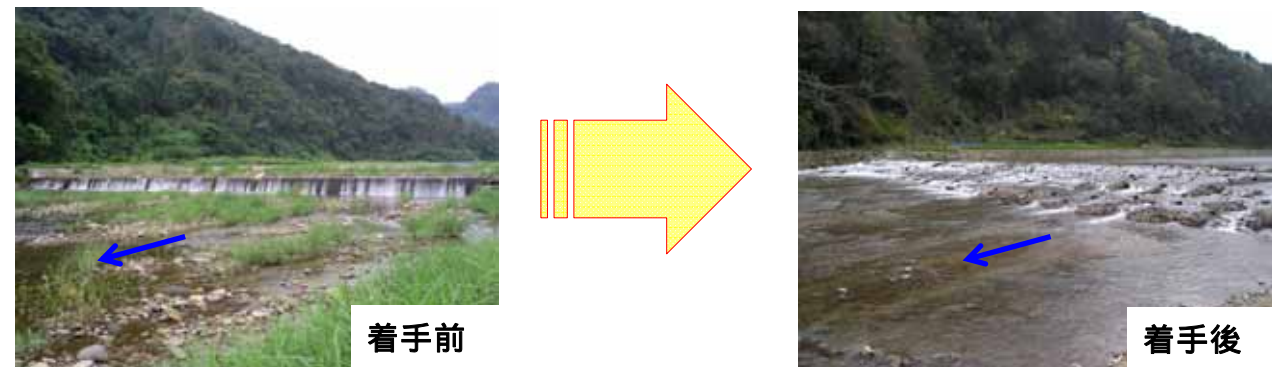
鞍内地内の護岸整備

治水安定を図るため、鞍内地区で護岸整備を実施しました。護岸整備にあたり、現地にある石を使用すると宇川の河川環境が改変することから、コンクリートに自然石を埋め込んだ製品を使い、周辺環境と調和した護岸整備を行いました。



中野地内から遠下地内における井堰の落差解消

治水及び河床安定を図るため、あるいは取水を目的とした落差工と呼ばれる堰の建設が行われていますが、その落差が大きくアユの遡上の障害となっていることから、その対策として、石を詰めた網状の袋を落差部分に置き、落差の解消を実施しました。従来型のコンクリートや石を使用した工法に比べ、建設に係る費用を抑えたものとなっております。なお、この工法は新たな試みであり、今後、経過等を見ながら問題点があれば改良を加える予定としております。



平成20年7月の豪雨により被災した護岸の災害復旧について

鞍内地内において、護岸の一部が崩壊しました。崩壊箇所の復旧に向け、**工事を行います**。現在、施工業者との契約準備をしております。

災害復旧工事の期間については、**年明けから着手し、3月末で完了予定**です。工事作業中は迷惑をおかけしますがご理解とご協力をお願いします。

ワークショップで討論した河川公園の取組み状況

現在、昨年度に階段式護岸を工事した所の上流で河川公園の計画図を作成しております。今回の工事で建設する階段とは別に、この河川公園から階段式護岸へ進入できるような坂道を作り、周辺の環境に配慮した休憩施設、植栽等の配置を予定しております。

宇川に関することや丹後土木事務所管内の河川公園等につきましてインターネットのホームページにて公開しておりますのでご覧ください。



発行：京都府丹後土木事務所 http://www.pref.kyoto.jp/tango/tango-doboku/kasen_kouji.html

問合せ先：担当 河川砂防室 大下 電話 0772-22-7986(直通)

2008.12

各戸配布

宇川親水公園ワークショップ ニュース Vol.4

はじめに

今回のワークショップニュースについては、昨年、平地区で実施した階段式護岸の続きの工事のお知らせと宇川で実施した工事の取組み状況及び夏と秋に魚類調査を実施しましたので、その結果について紹介します。

【工事概要】

工事名 宇川河川防災施設工事（丹後20河防施第1333号の1の1）

工期 平成20年12月11日～平成21年3月25日（予定）

請負者 (有)新生建設（京丹後市大宮町周枳） 電話 0772-64-4006

現場代理人：小山内 和善 主任技術者：西村 桂一

工事内容 階段式護岸 延長 35m 階段工 1箇所

施工方法 河川に濁水を極力流さないように大型土のうにより締め切りを行います。また、発生する濁水を沈下させるため、沈砂池を比較的大きく作ります。

階段式護岸については、前回と同様に川の水際は、黒っぽい石をそれ以外はすべりにくい石を使用します。

中瀬橋の下での施工箇所であり、橋に影響のないよう十分注意し施工します。

中瀬橋より下流に階段を設けます。階段の壁面に使用するブロックは、道側を通常のブロックとし、川側には、自然石を埋め込んだコンクリートブロックを使用します。

橋梁付近に照明等があるため、工事に支障が生じる場合は撤去し、復旧を行います。その際、道路の通行規制する場合があります。

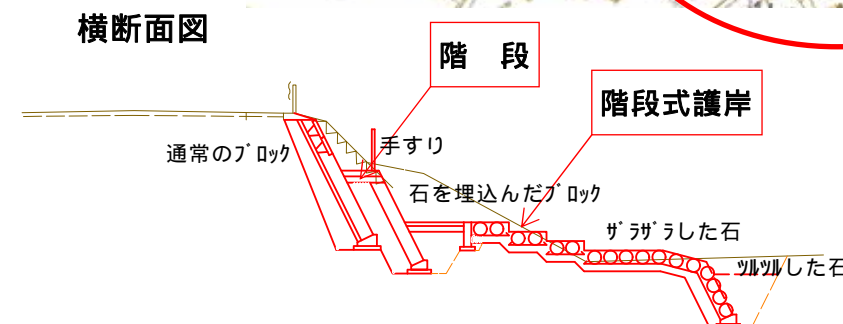
安全対策 地元車両を優先し、法令を遵守し、安全な施工に努めます。

工事中はご迷惑をおかけしますがご理解とご協力をお願いします。

平面図

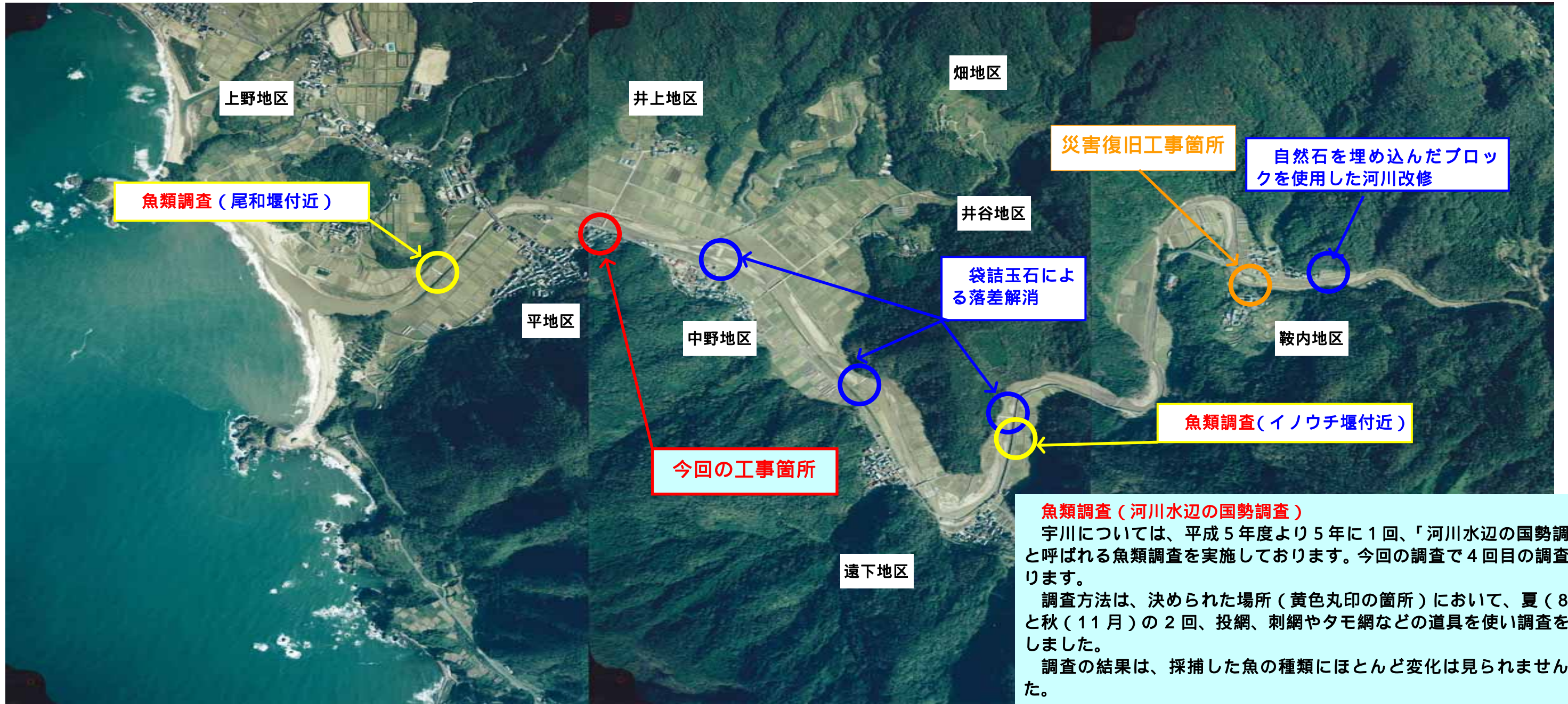


横断面図



昨年実施した階段式石積護岸を下流側に延伸し、あゆ祭りの会場の空間整備を行います。また、府道から出入りできるような階段を設置します。（左岸中瀬橋下流部）

宇川の工事及び調査実施箇所（航空写真）



魚類調査（河川水辺の国勢調査）
 宇川については、平成5年度より5年に1回、「河川水辺の国勢調査」と呼ばれる魚類調査を実施しております。今回の調査で4回目の調査となります。
 調査方法は、決められた場所（黄色丸印の箇所）において、夏（8月）と秋（11月）の2回、投網、刺網やタモ網などの道具を使い調査を実施しました。
 調査の結果は、採捕した魚の種類にほとんど変化は見られませんでした。

宇川の水族館（今回の調査で採捕した主な魚類）

<p>アユ (サケ目 アユ科) 【宇川を代表する魚】 秋に川で産卵、海にくんだり、春に川にのぼってくる。海では肉食性で、川にのぼると定着する藻（も）などを食べる。縄張りを持つ習性がある。</p>	<p>カマキリ (カサゴ目 カジカ科) えらぶたのうしろにトゲがあり、このトゲでアユをひっかけて食べるという伝説に由来し、「アユカケ」という別名もある。 環境省:絶滅危惧類 京都府:絶滅危惧種</p>	<p>ゴクラクハゼ (スズキ目 ハゼ科) 川の下流域から河口の汽水域の砂礫底に生息する、主に水生昆虫や底生小動物、付着藻類を食す。体の側面に一列に並んだ青い斑点がある。 京都府:絶滅危惧種</p>	<p>オイカワ (コイ目 コイ科) 川の流れの速い「瀬」にいて、川の汚れに対しても強い。草食が強いが昆虫も食べる雑食性である。産卵期にはオスは婚姻色に変わる。</p>	<p>カワムツ (コイ目 コイ科) オイカワより流れのゆるい「淵」にいて、きれいな水を好む。体側の中央に暗く太い縦の線がある。食性や産卵などはオイカワと同じである。</p>	<p>シマドジョウ (コイ目 ドジョウ科) 比較的水がきれいで流れのゆるやかな砂、砂礫底に生息。底生性の小動物などを食べる。くちヒゲが3対ある。</p>	<p>農林水産省 HP より</p> <p>スナヤツメ (ヤマメ目 ヤマメ科) 体は細長くウナギ形で、口はあごがなく吸盤状である。目の後方に「鰓孔(さいこう)」と言われるえらあなが7個ある。 環境省:絶滅危惧類 京都府:絶滅危惧種</p>	<p>ウナギ (ウナギ目 ウナギ科) 降下回遊魚で海で産卵。川を遡上(そじょう)し、目的の湖沼や小川へとたどりつく。河川生活は5~10数年。夜行性。 環境省:情報不足</p>	<p>アカザ (ナマズ目 アカザ科) 水のきれいな川にすみ、岩場のすきまに隠れる。背ビレに1本、胸ビレに1本ずつ、計3本の大きなトゲがあり、毒を持つ。 環境省:絶滅危惧類 京都府:絶滅危惧種</p>